

# NPO 法人 View ぶらす 様 施設案内パンフレット

## 裏 表 紙

## 表 紙

**インフォメーション**

サービス案内	対象: 発達に心配のあるお子様
	対象年齢: 2歳~18歳
	提供時間: 10時~18時
プログラム	小集団療育・個別療育・プログラム療育
定員	10名/日(先着順受付・放課後サービスとも)
定休日	日曜・祝日、夏季・年末年始

※ご利用にはサービス受給者証が必要です

**通所支援事業所 とことこ**

TEL: [REDACTED]  
[sites.google.com/viewplus-npo.com/tokotoko](http://sites.google.com/viewplus-npo.com/tokotoko) ホームページ

や  
り  
取  
り  
の  
力  
を  
め  
ざ  
し  
て  
育  
む  
療  
育  
を

とことこ

P.1

ゆったり、のんびり、マイペースに。  
子どもたちに寄り添いながら、  
やり取りの力を伸ばします。

**療育の目標**

目標は「『やる力』をつけること。心理士、作業療法士、保育士など高い専門性を有するスタッフが連携をとりながら、お子様の成長をサポートします。

かかわり	からだ	しんらい	あんしん	れんげい
あそびの中の絆感覚をつくるための身体をつくっていき	心と体に、からだ・感覚・感情の癒しをサポート	毎日行動の可負担度がチームで見直し、専門性を活かしてサポート	安心感覚を育むために、お子様の心地よさを確認していく	集中・理解・学習の基礎感覚を確実に育む

**とことこの取り組み**

児童発達支援事業  
(1~6歳までの未就学児童)

指導指導等デイサービス  
(小学校1年生~高3生)

保育所等訪問支援  
(保育所・幼稚園・学校等に通っている児童)

児童発達支援事業の理念をもとに、成長段階に応じて、お子様の心と体を育むため、トライアル形式での活動を実施するなど、お子様の必要な方向性を把握しています。

**施設について**

子どもはのびのびでき、大人は安心できる  
そんな環境づくりを大切にしています

子どもたちは、いつでものびのびとしている空間で、お子様が安全に過ごせる、いつでも安心してお子様がおしゃべり・遊ぶことができる環境を目指しています。そんな思いから、壁も床もオレンジ色で、お子様の元気なエネルギーを表現しています。

施設スペース1  
施設スペース2  
施設スペース3  
施設スペース4  
施設スペース5  
施設スペース6

ゆっくりと、自分らしく未来に向かって歩いていってほしい。  
そんな思いから生まれた「とことこ」。一人ひとりの成長を見守りながら  
子どもたちの人と関わる力を伸ばし、生きる力を育みます。

**Q&A**

- Q1 見学や体験はできますか？
- Q2 何歳から利用できますか？
- Q3 送迎はありますか？
- Q4 保護者自身の相談はできますか？
- Q5 開設料金は受けられますか？

P.2

## 制作 DATA

- 仕 様：A4 / 4 ページ／フルカラー
- 種 類：施設案内パンフレット（運営施設の紹介）
- 事業内容：放課後デイサービスの運営、訪問支援事業、など
- 制作目的：事業内容の説明、周知用
- 配布対象：保護者や訪問先の学校・支援施設の運営者など
- 配布方法：主に手渡し
- 制作期間：約 3 か月
- 料 金：110,000 円（ヒアリング／誌面デザイン／進行管理）  
※当ラボ運営のテンプレート式パンフレット制作サイト「イロハ冊子店」の  
「保育園用」テンプレートコンテンツを使用した分、レイアウト構成・  
編集費が含まれず、通常より低価格に。

## 制作の経緯

**【背景】** これまで理事長自らが案内パンフレットを内製。ただ、多忙で時間を取れなくなったため、外注で制作したいとご依頼。

**【ご要望】** デザインはシンプルに、掲載内容も定番のコンテンツが揃っていれば OK、コストはできるだけ抑えたい、とのご意向でした。

**【ご提案】** 当ラボが運営するテンプレート式パンフレット制作サイト「イロハ冊子店」をご紹介。

イロハ冊子店既存の「幼稚園・保育園」用のデザイン・コンテンツを使用することで制作コストを削減。

ただし、表紙デザインは既存の「幼稚園・保育園」用デザインではターゲットに対して「幼すぎる」とのことから、オリジナルデザインをゼロから制作。その分、デザイン費はアップに。

**【デザイン】** 表紙は、「足あと」をアイキャッチに、その足が道を歩んでいるイメージのデザインに落としこみ、子どもたちの自立・成長を表現。

カラーは「元気」「明るさ」を表すオレンジをメインに暖色系で統一し、中面では、走り出す子ども後ろから見守る「親の視点」の写真を大きく掲載することで、躍動感とあたたかさを表現しました。